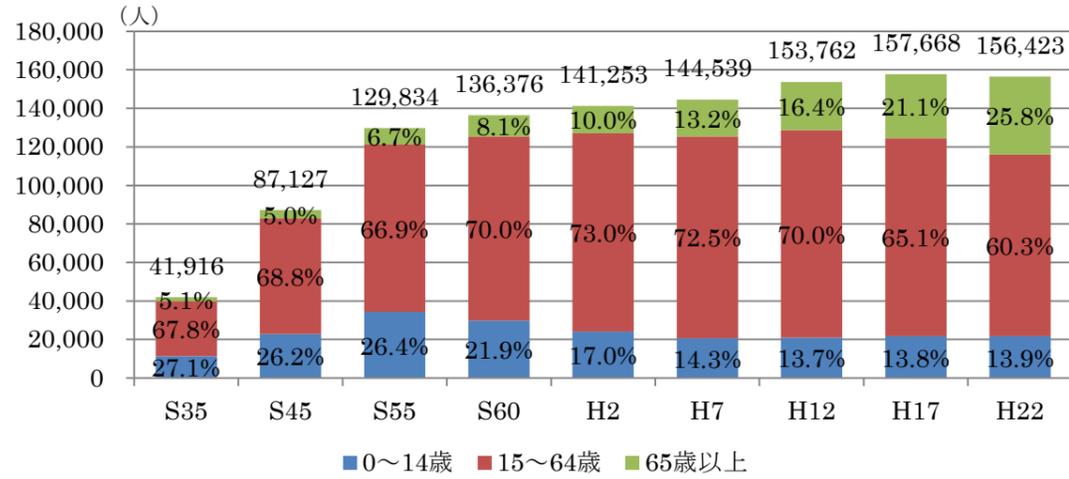


川西市の「人口ビジョン」の概要

川西市のこれまでの人口推移

○総人口の推移

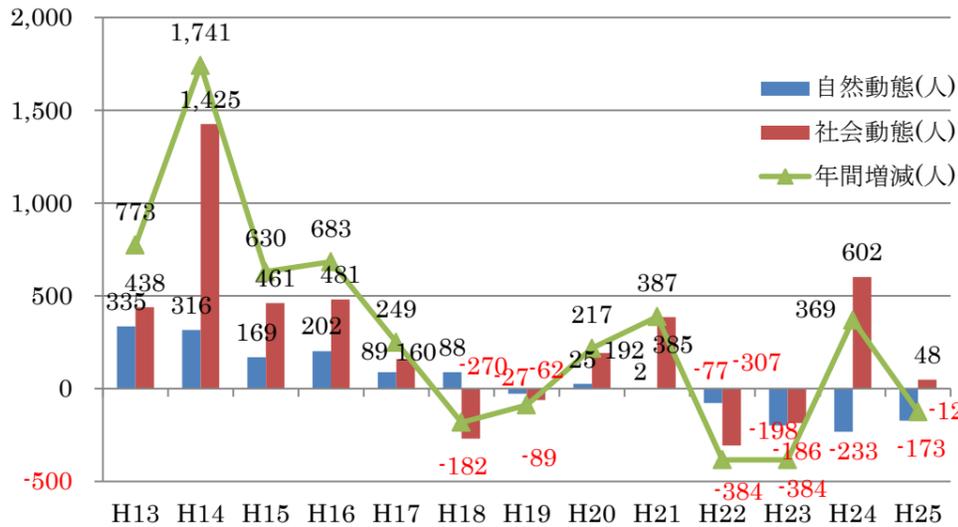
- ・昭和40年代から大規模住宅団地の開発により、人口が急増
- ・平成17年を境に人口が減少に転じ、高齢化率が20%を超える



○人口動態の推移

- ・社会動態は、年度により、バラつきがあるものの、転出超過の傾向にある
- ・自然動態は、近年、減少傾向にある
- ・年間増減は、年度により、バラつきがあるものの、減少傾向にある

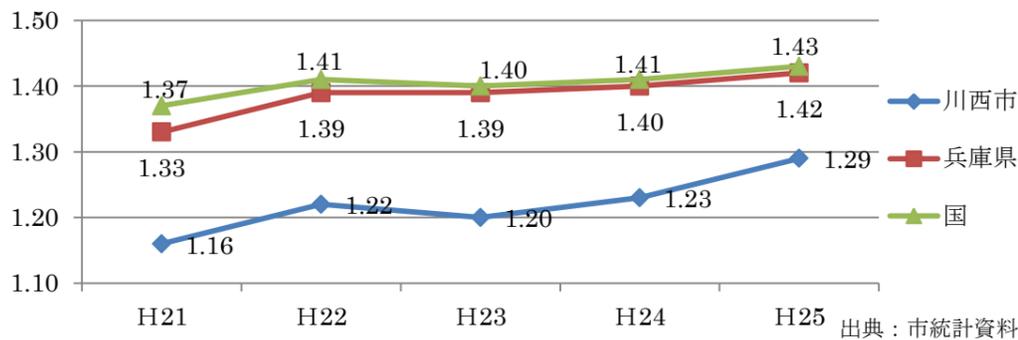
出典：国勢調査



出典：市統計資料

○合計特殊出生率の推移

- ・近年、微増傾向にあるものの、国・県と比較すると低くなっている



出典：市統計資料

市民生活への影響と課題

○高齢化の急速な進展

- ・医療需要・介護需要の増大・多様化
- ・見守りの必要な要介護者の増加
- ・交通弱者の増加

○生産年齢人口の減少

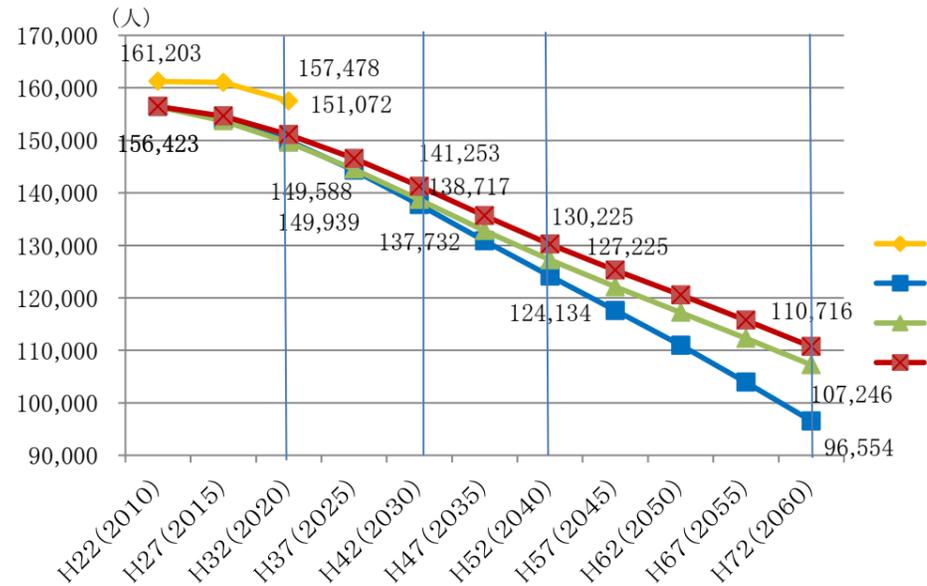
- ・市税収入の減少による行政サービスへの影響

○更なる少子化の進展

- ・未婚・晩婚者の増加
- ・子育てへの負担感による出生数の低下

○人口構造変化に伴う地域力の低下

- ・幅広い市民公益活動の必要性の増加



○少子化に歯止め

- ・子どもを産み育てやすい環境づくりが必要

○まちの生産性の向上

- ・幅広い世代の就労希望の実現が必要

○高齢化への対応

- ・健康長寿の実現が必要

○まちの構造の転換

- ・地域分権によるまちづくりの推進が必要
- ・大規模住宅団地の再生が必要

【凡例】

①: 市総合計画推計※住基ベース

②: 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠

③: ②をベースに、市の施策により子育て支援等を行い、今後全域的に縮小すると仮定

④: ③をベースに、市の施策により移住・転入者支援等を行い、年間出生数1,000人を維持すると仮定

※市子ども・子育て計画におけるH27~31の出生推計値4,986人

④: ③をベースに、市の施策により移住・転入者支援等を行い、人口移動が均衡すると仮定

基本姿勢・将来展望

○少子化に歯止め

- ・子どもを産み育てやすい環境づくりが必要

○まちの生産性の向上

- ・幅広い世代の就労希望の実現が必要

○高齢化への対応

- ・健康長寿の実現が必要

○まちの構造の転換

- ・地域分権によるまちづくりの推進が必要
- ・大規模住宅団地の再生が必要

基本姿勢:人口減少・超高齢社会に着実に対応し、持続可能なまちづくりを実現する。

将来展望:子育て支援等により今後も年間出生数1,000人を維持するとともに、移住転入支援等により、人口移動の均衡を図り、計画期間中151,000人を維持し、長期的(H72)には110,000人を確保する。

《出生数の維持》

H32年間出生数1,000人(出生率:1.29)とし、以降も年間出生数1,000人程度の維持を前提とする。その場合、出生率は、H42:1.51、H72:2.00となる。

《人口移動の是正》

転出超過傾向の是正
人口流出抑制・流入促進による人口移動の均衡をめざす。

